

【いづか武のプロフィール】

1967年香川県大川郡津田町にて生まれる。地元の小学、中学、高校を経て、1986年早稲田大学理工学部物理学科に入学。1990年東京工業大学大学院応用物理学科修士課程に入学、地球物理学を専攻する。1993年同大学院博士過程に進学。1994年10月大前研一の政策勉強学校一新塾に1期生として入塾。地方自治について学ぶ。1995年3月政治の道へ進むことを決意して大学院を中退。1995年6月社会勉強と選挙資金を貯める為に、世界最大の経営コンサルティングファームであり、情報技術革命のブームにも乗っているアンダーセンコンサルティングに入社。リ

ース会社の全社情報システムと県庁の土木情報システムの開発に携わる。1995年9月結婚。1995年9月一新塾都議養成科に入塾、1年間に渡って都政の事を学ぶ。1996年6月一新塾三期塾生として「地域国家論とインターネット時代」について学ぶ（現役塾生）。1996年9月三木立氏らと共に若い政治家のグループ「次世代」を立ち上げる。1996年9月アンダーセンコンサルティング退社後三木立選挙事務所の事務局長として衆議院選挙を手伝う。1996年11月、1997年6月に予定されている都議会議員選挙に向けて政治のベンチャー「NEXT」の立ち上げなど準備活動に入る。1997年3月現在29歳。

根本二郎都議選候補から推薦依頼がありました

【根本二郎氏の推薦理由】

根本二郎氏より、次期都議会議員選挙の推薦依頼がありました。

根本二郎氏は、日本で初めて直接請求による「住宅基本条例」の制定を指導し、新宿区の住宅政策・まちづくりを実現させております。

このバイタリティを都政に向けて、当選の暁には当会の政策を本気になって取り組む人であると確信致しております。

1区エリアマネージャー 佐藤鶴次郎
根本二郎 支援者代表 笹本 弘子

【根本二郎の経歴】

1948年福島県いわき市に生まれる。東京に憧れ一人で上京し、1964年太田区立糎谷中学校卒業。3年間野球に明け暮れ、1967年都立田園調布高校卒業。政治意識に目覚め、1972年中央大学法学部政治学科卒業。青年運動などを経て、1979年飛鳥田一雄衆議院議員秘書になり、政治の基本を学ぶ。1983年新宿区議会初当選、34才。1997年現在4期目、48才。

特別出張所のコミュニティセンター化を提案、地域振興の新設や区民センター建設を実現。

バブル時期、乱開発に対抗、直接請求による「住宅基本条例」制定を指導、新しい住宅政策、まちづくりを実現。

少年野球の監督や区立大久保中学校PTA会長など子供の健全な成長を願い奮闘。

議会では、交通公害対策特別委員長、決算特別委員長などを歴任。

現在は、区立中学校PTA協議会OB・OG会役員、少年野球「新宿球友リーグ」会長、中企連顧問、中村淳夫氏主催「劇団東京クラブ」総務、自治体議員フォーラム運営委員、新宿区議会定住促進対策特別委員長、などを務める。

趣味は、野球・小唄・演劇鑑賞など。

【根本二郎の抱負：これでいいのか東京！】

1. 新宿に学んで

新宿は、関東大震災後拓け、戦後は「光は新宿から」といち早く闇市がスタートした進取の気鋭とバイタリティあふれる、生成流転の激しい“まち”です。「バブル」の時には、地上げが押し寄せ、地価は激しく高騰し、「バブル」崩壊後は、大きな傷跡を。私の住む富久町は、その典型です。

区議4期14年。私は新宿で多くの事を学びました。

2. 価値観の転換を

強く思うことは、戦後の日本は、「お金で買えないものがある」事を忘れてしまっているということです。ヨーロッパの諸都市には、古い町並みが多く残っている事に驚かされます。戦争で破壊された建物をもう一度復元する程に、歴史を大切にしています。「歴史、そして美しい自然は、お金で買えない」からです。

バブル期、土地も、建物も、緑も、みんな札束に換算されました。人と人との信頼もズタズタにされました。もう二度と繰り返してはなりません。

3. 都政をスリムに、クリーンに

「バブル」に踊った東京都は、今病んでます。本来「区」に入るべき固定資産税や法人住民税を吸い上げ、権力を集中し、肥大化した都市構造が、後遺症を深刻にしています。都庁舎の維持費だけで、年100億円。それに引き換え新宿区の年間予算は1200億円です。

権限と財源を「区」に移し、区民と密着した区政にしなければなりません。都政をスリムに、クリーンに。そして豊かな23区を。

福祉も「まちづくり」も「区」が責任を持ち、区民主役の自治体を。そして美しい東京を！

区議14年の実績を生かし、新宿の代表として、私はやります。